## ３つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております

**小原本陣の森**

**第１日曜日**

**知足の森**

**第１日曜日**

**相模湖・嵐山の森**

**第３日曜日**

# News Letter

# NPO法人緑のダム北相模
# midorinodam.jp

**No.477-478**

林野庁長官賞を受賞しました

## 【定例活動報告】相模湖・嵐山の森

この度、相模湖・若者の森づくりの活動で、ForestGood2018 間伐・環境教育部門で林野庁長官賞を受賞させていただくことになりました。受賞に際して、「中高生による本格的な間伐、間伐材によるつみ木製作とそれによる木育なども行っており、メンバーの中からは森林・林業関係に就業する者もあり、人材育成の成果も期待される。 」、「森林再生のNPO法人として有名な団体だが、森林、木材の有効性と間伐の必要性を、特に次世代に意識的に伝承する取り組みとともに、若者が興味を持つGPSや全方位カメラなど先進技術を先取した森林再生活動を評価したい。会員の多くが定年者ら年輩者で自らの価値観で若者に一方的に意義を教えるのではなく、若者の興味をひ くことで、さらなる若者の参加者の増加につながる好循環がヤマの現場で形成され、 他に波及させるモデルとなり得る。」などのコメントをいただきました。現在、ECOM駿河台で12月7日まで受賞者展示、その後、林野庁でもポスター等が掲示されます。また1月には受賞式があるということですので参加させていただく予定です。若者が実際に

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

森で活動するには多くの課題がありますが、会員を始め内外の皆さまのご支援あっての受賞です。この場を借りてお礼申し上げます。

　秋晴れ、晴天の今年最高ではないかと思われる好天の中での活動日だった。大学生は国家試験前のため少なかったが、中高生と初めて参加されたが学芸大の二人、大月で観光農業をされている若者5名が参加され、若者集団に包まれた一日であった。森林整備ではモマ工房という木工班の基地になる小屋であるが、流石に丁寧に建てられた小屋である。
　しかし基地の移動の為壊さなければなら無くなったので、本日いよいよ決行である。10名程人材が集まったので、屋根の解体から始め補強壁、床と取っ払っていった。その後は滑車とロープで一気に倒壊させた。裏に隠れた材木は15年以上経ってるにも関わらず、とてもしっかりしていたので大事に保管し、新基地でベンチや整理棚の制作に使うことにした。
　所要時間は正味2時間程度であっけなく終了した。栗のイガを避けて座り日差しの中で昼食を取った後は、B地区の材の運びだしを中高生に混ざって活動した。相当の材があるのでもう少し時間が掛かりそうだ。マッシュプーリーの出番が来たようだ。お花畑班のモッコウバラも一つ一つポットに移し替えて移転の準備は着々と進んでいる。モマ工房を守ってくれていた。（報告：小林　照夫）
　私は、今回初めて嵐山での森林整備に関わる活動に参加した。活動内容についてはスギの間伐、伐採されたスギの運搬、小屋の撤去作業など研究室の先生より事前に説明されていたが初めての参加でもあり実際の作業がどのようなものなのか少々不安でもあった。
　午前中は小屋の撤去作業を手伝った。小屋の屋根にはしごで登り、バールでスレート瓦を剥がすなど経験したことの無い作業でもあり最初はなかなか上手に出来なかったが、他の参加者の人達に丁寧に教えてもらいその後は手際よく作業に取り組むことが出来た。
　昼食後は今回一緒に嵐山の活動に参加された先輩がサークル活動で学園祭に使用する積み木の製作を手伝った。その後、他の方が行っていた伐採したスギを一か所に運ぶ作業を手伝った。伐採されたスギは、まだ伐採されてあまり時間が経っていないようで湿っており、４人で運んだが想像以上に重かった。今回経験した作業はどれも大変で疲れたが、終わった後はとても達成感があった
　今回初めて参加し、森林を整備してゆくためには「多くの人手」そして「地道な活動」が必要であると感じた。またその活動の大変さも実感した。当日中学生が参加していたが、彼らが作業をしている姿をみて林業にとって、また将来に渡り森林を整備していく為には若い人達の力がこれから一層必要になるとも感じた。（報告：神　智公、麻布大学３年）

　この日は午前中に間伐、午後はこれまで間伐した材の整理を行った。材の整理は他の方が書かれている通り、かなりの量があり、年度末までには、という作業であるが、私の勤務する学芸大小金井中で10月末に行われる学芸発表会で使用するビデオで間伐シーンが足りない、ということで、急遽数本間伐させてもらった。間伐自体は一瞬例により掛かってしまったが、この日は大学生の参加が多く、そのパワーによりあっさり外れた。その材も２mごとに玉切りして、農道沿いまで運び、いつでも使える状態にした。午後からはこれまで点在していたいくつかの仮置場の集約である。ここは何よりも人の数。２mに切りそろえ直すために測る人間、切る人間、運ぶ人間、それを交代交代で２チーム。誰というわけでもなく自然にチームがわかれ淡々と作業が進む。結果、森林整備班や桜井先生にもお手伝いいただき、表紙写真のようなところまで作業が進んだ。本当にあと少しでこの地区の作業も終わる。この材をどう活用するかが、次の課題である。（報告：宮村　連理）

# 【定例活動報告】知足の森

今回は前回の続き、長福寺所有林西側の状況把握。境界線についてはほぼわかり、面積感覚（という言葉が正しいかわからないがこれくらいの広さがあって、ここはこうというイメージ）も固まってきたので、では、その中に生えている木はどんな状態か、全体像をつかむのが今回の目的。今回も地球環境部、そのOB、学芸大からは大学生と中学生が、さらに今回は角田さんという強い助っ人も。すり鉢状の内側を等高線に沿って歩いて、状況が変わるたびに、通常の写真に加え、360度写真、位置情報、主だった樹種と胸高直径を測定してメモしていく。メモ係の女子中学生が「メモ慣れ」しており、どんどんデータが整理されていく。後日まとめたものをもらったが、ちゃんと表になっていて、さすが学大小金井中生といった出来。それらのデータはArcGISを使ってまとめ、地主さんに確認してもらっている最中だ。お昼はお寺に戻るのもなんだ、ということで、森の一番奥で。思い思いの場所取をして、のんびりと。一番奥のあたりは倒木や欠頂木、枯れて菌が回って白くなってしまっているものがかなりあり、ついついこれも切ろう、あれも切っておこうと、結局1人１本きる練習大会に。途中で調査の途中だということを思い出し、キリのいいところをなんとか見つけ、最後まで調査作業をやり切った。これで所有林の全貌が掴めたといっていいと思う。あとはどこを優先させて作業するか、だ。

それともう一点気になったのは、中学生が発見した鹿の角だ。小菅村の合宿で学んだ知識によれば、４歳以上の個体だということはすぐわかったのだが、このあたりに鹿がいるのだろうか。角自体はまだ新しいようなので、最近抜け落ちたものに見えた。午前中の作業ではタヌキらしきものが目の前をよぎっていったりと、動物とも多く遭遇した活動日になった。

宮村　連理（本会、副理事長）

# 【イベント報告】

小金井市東児童館は今年で開館５０周年を迎えました。それを記念して、間伐材を利用して作られた積み木5000個をお借りして、みんなで楽しむイベントを開催する事になりました。

期間は9月25日㈫から28日㈮の四日間で、「積み木Week」と名付け、グループ活動で高く積む競争をしたり、自由に遊ぶ日を設けて行いました。印象的だったのは、積み木は小さい子の遊びだからやらないと言っていた小学生たちが、多くの積み木を目の前にすると皆夢中になって積み始めたことです。また、幼児たちは積み木の山に向かってダイブしたり、からだ全体で木を感じていました。

中高生対象の時間では、「世界遺産を作ろう」に挑戦しました。しかし、これは難易度が高く、上手く作れず低いピラミッドのようになってしまいました。　こちらからの働き掛けが無くとも次々に取り組む子ども達の姿をみて、児童館の備品に積み木が欲しいと話す者や、木の香で癒されたとの声もあり、職員も充実した時間を過ごすことができ、感謝しています。

安部　富代（小金井市東児童館）

# 桜井尚武の森のコラム

## 「晩秋の森の赤い実」

図1. サネカズラの実
20071118嵐山

図2. ヤブコウジ
20091118嵐山

図3. センリョウ
20101121踊場

図4. マンリョウ
20101121踊場

図5. カラタチバナ
20091020日大藤沢演

晩秋の森では落葉樹が葉を落として林床が明るくなりました。そんな時期、嵐山の山頂に近い林の中で大きな赤い実を見つけました（図1）。サネカズラ（*Kadsura japonica*）でした。マツブサ科サネカズラ属の木性常緑ツル植物で、樹皮に多量の粘液質があってこれを湯で抽出して整髪料に使ったことからビナンカズラの別名があるといいます。2007年に初めてこの実を見た時には同行していた学生達と歓声をあげました。もちろん今でも、注意して探せば案外簡単にみつかります。

足元に目をやると赤い実を付けたヤブコウジ（*Ardisia japonica*）がみつかります（図2）。ヤブコウジ科の植物ですが、最近のDNA塩基配列情報を基礎にした新しい分類体系（APG（Angiosperm Phyrogeny Group被子植物系統研究グループ））ではサクラソウ科ヤブコウジ属に移されました。比較的乾いた丘陵地によく見られる小型植物で肥沃な立地を示しています。このヤブコウジにセンリョウ（*Sarcandra glabra*、図3）マンリョウ（*Ardisia crenata*、図4）を合わせた寄せ植えで正月飾りを作れます。この時、アカネ科のアリドオシ（*Damnacanthus indicus*）を添えて目出度さを演出するのが粋な計らいです。なお、千両万両に合わせてヤブコウジを十両といい、近い仲間のカラタチバナ（*Ardisia crispa*）（図5）やモクタチバナ（*Ardisia sieboldii*）を百両と呼ぶ楽しみもあります。これらはどれも耐陰性の高い低層植生です。他の植物が育ちにくい暗い所でも実を結べるので、晩秋の山歩きにはいい探索目標になるでしょう。

桜井　尚武（本会、会員）

# 【若者の森づくり】地球環境部

森林保全活動として、午前中は2本の木を伐採、午後は既に切られている木を一ヶ所にまとめるという作業をやらせていただきました。

私は高校の時に、高校所有の森で森林保全のために木を伐採したことがあったのですが、そのときは先日切った木よりも細いものを切ったので、あそこまで大がかりなものは初めてでした。私は文化祭での発表のために写真や動画を多く撮らせてもらっていたのですが、中学生が積極的に動いていたのが印象的でした。

午後はかなりの体力勝負でしたが「女子だから」という理由でかなり休ませていただきました。ありがとうございました。いくら細くても湿っている木は重く、いくら太くても乾いている木は非常に軽くて、こんなにも違いがあるものなのかと驚きました。また、少しぬかるんでいる地面であったので、少し歩きづらく、それも含めて良い経験をさせていただけたと感じています。今回の経験は非常に新鮮でした。

私の祖父は昔、林業も本格的にやっていましたが、年で本格的にはやらなくなった理由が分かったような気がします。いくら慣れていたとしても、

あの作業をやるのは年齢を重ねてくると危険だろうと思いました。そのためにも私たちのような若い世代が学び、またさらに若い世代に伝えていくということが必要なのだろうと感じます。

今回は参加させていただきありがとうございました。

宮下　真珠

（東京学芸大学教育学部A類環境教育選修２年）

この度は、森に入り自然に触れるという貴重な経験をさせていただきありがとうございます。当初は、どのような活動になるかがわからず不安がありました。しかし、想像以上に濃密な時間を過ごすことができました。

私は埼玉県の住宅街に生まれ育ち、山や森と言えば学校の校外学習などで行くハイキングや友人と行くスキーのイメージが占めていました。教科書の知識として、天然林と人工林の違いや定期的に間伐することの重要性、林業の高齢化（担い手の不足）などはありました。しかし、どれ一つとっても実体験が伴うものではありませんでした。

今回の活動は実際に森に入り、のこぎりを用いて木を切り倒し、運ぶという私にとって初めての連続でした。チェーンソーの轟音、木が倒れるときの音、水を含んだ木を運ぶときの重量感などは、何事にも代えられない経験です。

今回の経験を1度の発表で完結させるのではなく、今後の学生生活、さらには教員となったのちにも広めていくことが重要であると考え、多くの人が森林とつながるきっかけを作っていければと思います。

佐藤　宏太朗

（東京学芸大学教育学部A類環境教育選修１年）

## 【若者の森づくり】Forest Nova

10月27日(土)、28日(日)に麻布大学の大学祭が開催されました。

1年生にとって初めてとなった大学祭で、Forest Novaは活動紹介のポスターやパネルの展示、子ども向けに積み木や木工を行いました。また、展示場所が6階ということもあり、足を運んでもらいやすくするためにスタンプを自分たちで作り、スタンプラリーも行いました。

初めは人が来るかどうか、どう動けばいいのかなど、いろいろな不安がありました。そんな中、一度に来る人数は少ないものの、想定していたよ

りも多くの方が来てくださり、子どもたちは積み木で楽しく遊んでいるようでした。そして、特に大きなトラブルもなく無事に終えることができました。しかし学生がほとんど来なかったので、来年は学生にも興味をもってもらえるような企画を考えたいと思いました。

今回の大学祭を通して、説明を求められた時にしっかりとした説明ができなかったり、伝えたいことがうまく伝わらなかったりと、個人の力不足を感じました。だから、まだ学べる立場にいる1年生であるうちにいろいろなことを教わり、より多くの知識を得たいと思います。また、メンバーが少ないと準備や当日も余裕がなく、満足がいかないことが多くあるので、やはりもっと人数が必要だなと実感しました。

別城　夏子（Forest Nova）

## 【緑のダムの２０年を顧みて】

そのような事で当会が、「貝沢の森」に何のために入っているかを地域の人々知って頂く事の重要性を痛感した為、あらゆる機会を活用した。相模湖町の相模湖畔で開かれる「緑の日・湖畔祭り：4月29日」、ＪＲ相模湖駅側の桂北公民館前広場での「町の活動展：9月末土日」等イベントに毎回参加する[事とした。そんな中で若手町議会議員（当時、相模湖町は独立した行政単位だった）３人、環境庁（当時：自然環境計画課長）の1人が熱心に応援してくれるようになった。

参加者は徐々に増え、道具は「空気清浄装置」のメンテナンス収入で買い足した。運搬は、京王

線、JRを使って家内と二人でリュックサックで運んだ。一人・二人と参加が増えて行くにつれて運搬が大変になってきた。特に長鎌は厳重に包んで纏めて運んだが，電車で運べる状態で無くなっていた。

運搬に困った頃、セブン-イレブンみどりの基金の兵頭さんから電話が有って「作業道具を電車で運んでいるそうですね。軽トラ中古を買ってあげましょう」とのお話。有難いですが、ガソリンや車検費などが掛かります」という私に

「キチンと領収書を揃えて提出ください。前払いで出してあげます」。誰かが何処かで見かねて「セブン-イレブンみどりの基金」に通知してくれたのだ。その誰かは不明だが、感謝の気持ちは今も忘れていない。軽トラは買っては貰えるものの駐車場がない。困っていたところ駅前商店街の舛田食料品店のご主人から「うちの駐車場を無料で自由に使って下さい」と言う申し出があった。

車は置けるようになったが、道具の保管が問題となった。「ＪＲ相模湖駅長に駅裏にでも保管庫を置かせてもらうか」と言った所、「ＪＲが置かせる訳はないだろ」が殆どの意見であった。

そりゃ、やって見なければならない。駅長に申し出たがチョッと無理そうなので、町のイベントで親しくなっていた鹿島田観光協会長（当時）に相談したら「交渉してあげましょう」と快諾して頂いて、お陰で 保管庫を持ち込むことが出来る様になった。保管庫持ち込み当日、軽トラで縦型物置を運んで行ったら鹿島田会長が敷石レンガ待っていて下さった。今では鹿島田さんは会長を引いて他の人がなっているが折々、湖畔の店にお訪ねしている。

この様に何もかも順調に言っているように見えるが、妨害・中傷と様々な困難もあった。然し、困難を突破してこそ前進がある。私に好きな言葉に・・・・、

「楽しきと思うが、楽しき本（もと）なり：松平定信」

＊松平定信：徳川吉宗の孫：寛政の改革実践者。

石村黄仁（本会、顧問）

## 【事務局から】

さがみはら市民活動フェスタ2018に出展します。

小原の酒饅頭＋間伐材を活用した容器にて、下記の通り参加します。

手をつなぐ　想いをつなぐ　市民力

今年も、サポセン登録団体の活動を、広く市民の皆様に知っていただく機会を提供すると共に、活動のさらなる活性化を図るべく様々なプログラムをご用意しました。皆様のご来場をお待ちしています！

◇日　時：11月11日（日）　9:30～15:00
◇会　場：淵野辺公園　銀河アリーナ前

### 参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は汁物が提供されますので自分の食器(お椀・お箸)

### 危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。


## NPO法人
## 緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
発行人：NPO緑のダム北相模
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア環境助成
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱